

平成28年度 第2四半期（7月～9月）

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 中小企業相談所

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)対象企業数：362社
 - (3)回答企業数：195社（回答率53.87%）
- 調査期間
 - 平成28年7～9月
- 調査方法
 - 往復ハガキによるアンケート調査
- 回答企業の内訳
 - 製造業93・建設業30・卸売業21
 - 小売業21・運輸業13・サービス業17

全産業業況DI値は前回調査から5.3ポイント改善、平成27年度第2四半期から9.1ポイント悪化

■全業種概要

全産業の総合判断DI値は▲16.8となり、前回調査（▲22.1）から5.3ポイント改善、平成27年度第2四半期（▲7.7）から9.1ポイント悪化した。

来期見通し（10月～12月）については、業況DI値は▲12.3となり、前回調査（▲17.6）から5.3ポイント改善、平成27年度第2四半期（▲10.7）から1.6ポイント悪化が予測されている。

消費意欲の停滞感が際立ち、さらに低価格志向へのシフトが顕著になっている。加えて、慢性的な人材不足が先行きの不透明感を強めていることが窺える調査結果となった。

■製造業

業況DI値は▲6.6となり、前回調査（▲15.4）から8.8ポイント改善、平成27年度第2四半期（▲4.3）から2.3ポイント悪化した。

産業機械や自動車関連は、国内外ともに需要環境の足踏み状態が継続しているとの声が聞かれた。一方、食品業では、円高による輸入原料の単価下落の恩恵があったとの声が聞かれた。

来期見通しについて、プラスチック業では、スマートフォンをはじめとするモバイル市場が勢い付くことで回復に期待したいとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」、「生産設備の不足・老朽化」が主に挙げられる。

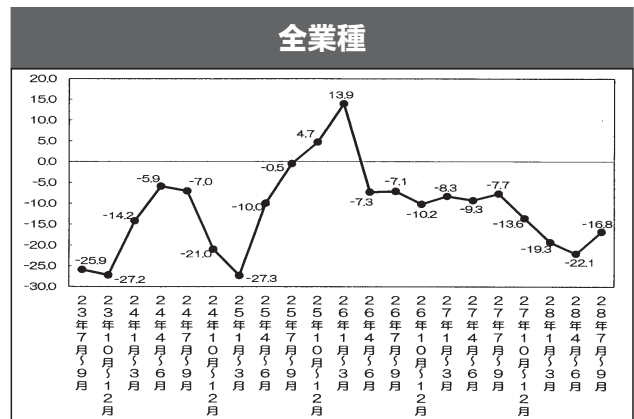
■建設業

業況DI値は6.7となり、前回調査（▲7.7）から14.4ポイント改善、平成27年度第2四半期（0.0）から6.7ポイント悪化した。

3期連続でDI値は改善傾向を示し、9四半期ぶりにプラスへ転じた。建設工事のなかでも、増築工事や改修工事が増加傾向にあるとの声が聞かれた。一方、公共工事の発注量減少や発注時期の偏りによる影響が大きいとの声も聞かれた。

来期見通しについては、土木工事の官公需や民需の伸びに期待したいとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「官公庁需要の停滞」、「民間需要の停滞」、「熟練技術者の確保難」が主に挙げられる。

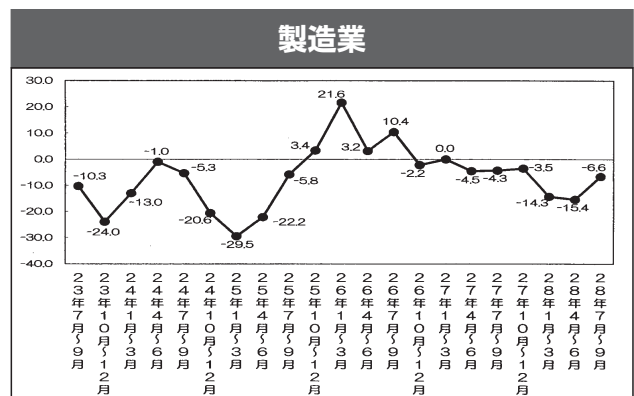


《A》 前年同期（平成27年7月～9月）と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	↑
14.7%	53.9%	31.4%	▲16.8	↑

《B》 来期（平成28年10月～12月）の景況見通し

良い	同様	悪い	DI値	↑
15.0%	57.8%	27.3%	▲12.3	↑

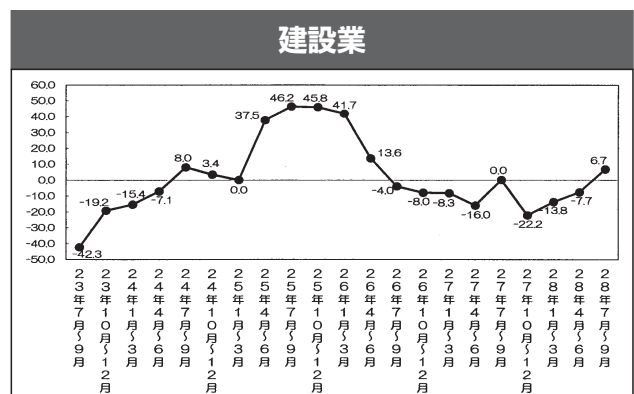


【今期の景況】 平成28年7～9月

業況	▲6.6	↓
----	------	---

【来期見通し】 平成28年10～12月

業況	1.1	↑
----	-----	---



【今期の景況】 平成28年7～9月

業況	6.7	↑
----	-----	---

【来期見通し】 平成28年10～12月

業況	▲7.1	↑
----	------	---

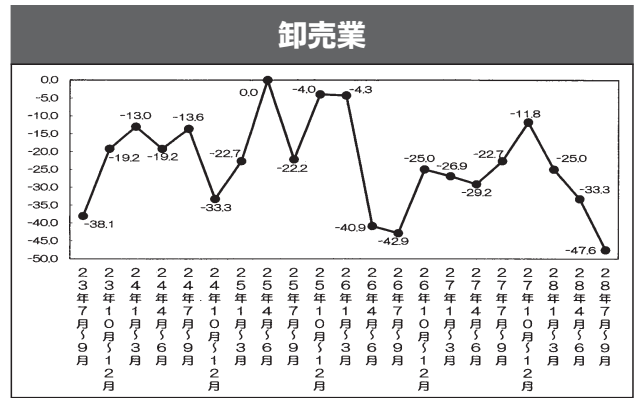
■卸売業

業況DI値は▲47.6となり、前回調査（▲33.3）から14.3ポイント悪化、平成27年度第2四半期（▲22.7）から24.9ポイント悪化した。

消費動向は低調に推移しており、とりわけ低価格品のみが動いている状況で、収益改善には程遠いとの声が聞かれた。

来期見通しについては、消費低迷に加え、小売店の廃業が増加傾向にあるとの声も聞かれ、需要の停滞が続く見方が多い。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「販売価格の低下・上昇難」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成28年7~9月

業況 ▲47.6 ↓

【来期見通し】平成28年10~12月

業況 ▲42.9 ↓

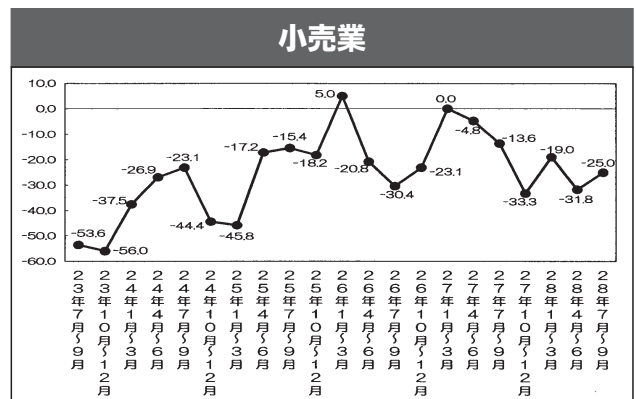
■小売業

業況DI値は▲25.0となり、前回調査（▲31.8）から6.8ポイント改善、平成27年度第2四半期（▲13.6）から11.4ポイント悪化した。

真夏日が続き、夏期商品にとってプラスに動くはずが、セールによる値下げ後も購買意欲が上らず厳しい状況が続いたとの声が聞かれた。

来期見通しについて、衣料品小売業では、秋物を中心とした客足の伸びによる、売上増を見込むとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「単価の低下・上昇難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成28年7~9月

業況 ▲25.0 ↓

【来期見通し】平成28年10~12月

業況 ▲20.0 ↓

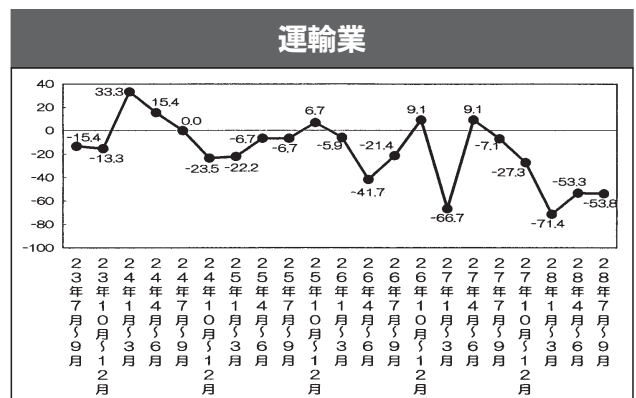
■運輸業

業況DI値は▲53.8となり、前回調査（▲53.3）から0.5ポイント悪化、平成27年度第2四半期（▲7.1）から46.7ポイント悪化した。

東海地方は台風の影響が少なく、厳しい暑さで飲料分野が伸びたため、需給はタイトに推移しているとの声が聞かれた。

来期見通しについては、慢性化している人材不足と人件費上昇を懸念する声が多く聞かれ、その対応如何が回復の鍵を握ると窺える。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「人件費の増加」、「運送単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成28年7~9月

業況 ▲53.8 ↓

【来期見通し】平成28年10~12月

業況 ▲15.4 ↓

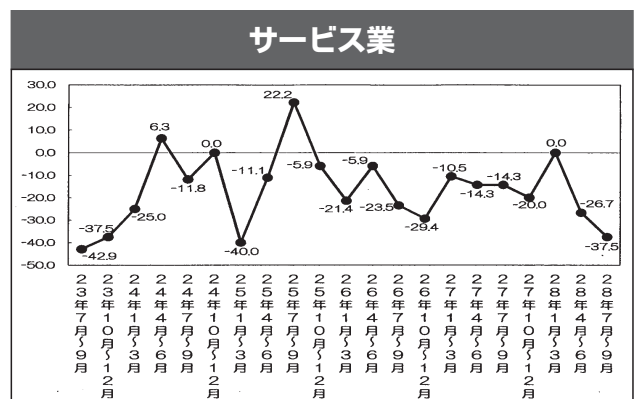
■サービス業

業況DI値は▲37.5となり、前回調査（▲26.7）から10.8ポイント悪化、平成27年度第2四半期（▲14.3）から23.2ポイント悪化した。

一般的に慢性的な人手不足が顕著に現れている。さらに飲食業では、低価格重視の消費行動が多く見られ、人件費の増加と相まって、業況は下降の一途を辿りつつあるとの声が聞かれた。宿泊業では、訪日外国人の宿泊者数減少の影響が出ているとの声が聞かれた。

来期見通しについて、旅行業では、行楽期を控え団体旅行需要に期待しているものの、先行きは不透明との声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「消費者ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成28年7~9月

業況 ▲37.5 ↓

【来期見通し】平成28年10~12月

業況 ▲43.8 ↓